

ものづくり大学 2023 年度

・学力特待生入試 [2 日目]

・一般入試 [A 日程] [2 日目]

問題冊子

試験時間 120 分

受験番号		フリガナ	
		氏 名	

(注意事項)

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子の表紙に受験番号と氏名、フリガナを必ず記入してください。
学力特待生入試と一般入試を併願している場合は、両方の受験番号を記入してください。
3. 問題冊子は数学、英語、国語の各教科からなります。合計 15 ページです。
4. 出題教科、ページ及び選択方法は、下表のとおりです。

出 題 教 科	ページ	選択方法
数 学 (100 点)	1 ～ 4	・学力特待生入試出願者は、3 教科全てを解答してください。 ・一般入試 A 日程出願者は、3 教科から 2 教科を選択し、解答してください。3 教科全てを解答した場合は、高得点の 2 教科で判定します。 教科の時間配分は自由です。
英 語 (100 点)	5 ～ 9	
国 語 (100 点)	10～15	

5. 問題冊子はどのページも切り離してはいけません。
6. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて試験監督に知らせてください。
7. この問題冊子は、試験室から持ち出してはいけません。また、試験終了後、回収します。

数学試験問題

問題4は、＜1＞、＜2＞のどちらか1問を選択して解答すること。

指示がない限り、答えだけでなく、考え方、途中の式変形なども丁寧に記述すること。

答えが間違っている場合でも、途中式や考え方があっていれば、部分点を与える。

答えだけしか記述していない場合は、減点することもある。

問題1

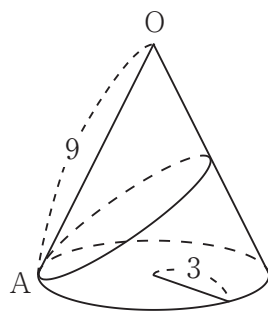
〔1〕 $\sqrt{5}$ の整数部分を a ，小数部分を b とするとき，次の値を求めよ。

(1) a (2) b (3) $b + \frac{1}{b}$

〔2〕 次の2次不等式を解け。

$$-x^2 - 2x + 4 > 0$$

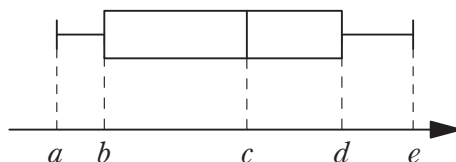
〔3〕 下の図のような母線OAの長さが9，底面の円の半径が3の直円錐がある。Aを起点として，直円錐の側面上を1回転してふたたびAに戻る曲線の最短の長さを求めよ。



〔4〕 下の表は9人の生徒の数学のテストの得点である。

生徒	A	B	C	D	E	F	G	H	I
得点	72	50	87	65	85	71	74	51	75

この得点を箱ひげ図で表すと下の図のような箱ひげ図になった。このとき， a ， b ， c ， d ， e の値を求めよ。答えだけを解答欄に記入せよ。



問題2

次の関数 $f(x)$ について、次の問いに答えよ。

$$f(x) = \begin{cases} (x+1)^2 & (x < 0) \\ -x^2 + 2x + 1 & (x \geq 0) \end{cases}$$

[1] $x < 0$ における頂点の座標を求めよ。答えだけを解答欄に記入せよ。

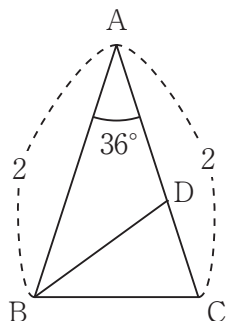
[2] $x \geq 0$ における頂点の座標および x 軸との交点の座標を求めよ。

[3] 関数 $y = f(x)$ のグラフをかけ。

[4] k を定数とすると、方程式 $f(x) = k$ が異なる3つの実数解をもつような k の値の範囲を求めよ。

問題3

下の図の $\triangle ABC$ において、 $\angle A = 36^\circ$ 、 $AB = AC = 2$ とし、辺 AC 上に $BC = BD$ となるように点 D をとるとき、次の問いに答えよ。



[1] $\angle BDC$ 、 $\angle DBA$ の大きさを求めよ。答えだけを解答欄に記入せよ。

[2] $BC = x$ とおくとき、 DC の長さを x を用いて表せ。

[3] BC の長さを求めよ。

[4] $\cos 36^\circ$ の値を求めよ。

問題4

<1>または<2>のいずれか1問を選択して解答せよ。

<1>

A, B 2つのチームで試合を行い, 先に3勝したチームを優勝とする。1回の試合でAの勝つ確率が $\frac{2}{3}$, Bの勝つ確率が $\frac{1}{3}$ のとき, 次の確率を求めよ。

[1] 4試合目でAの優勝が決まる確率

[2] Aが優勝する確率

<2>

次の等式を満たす整数 x, y の組をすべて求めよ。

[1] $(x-1)(y-3)=3$

[2] $\frac{1}{x} + \frac{3}{y} = 1$

英語試験問題

問題 1 次の問題 A～J の () に入れるのに最も適当なものを、①～④のうちから 1 つ 選べ。

A He was () care of his mother when she was sick.

- ① taking ② going ③ buying ④ catching

B You should look () your schedule every morning.

- ① down ② at ③ back ④ by

C You should not speak to him as if he () a child.

- ① were ② is ③ has ④ had

D I noticed that salt was () out when I started cooking.

- ① catching ② doing ③ running ④ walking

E I got () at 5 am because of early work.

- ① down ② right ③ up ④ back

F I () never been to Hokkaido.

- ① want ② am ③ have ④ will

G It looked more beautiful than I () expected.

- ① have ② had ③ am ④ were

H There was a lady () a purple raincoat in front of the house.

- ① on ② at ③ in ④ below

I He gives a lecture () math every week at the university.

- ① like ② to ③ but ④ on

J He has finished his homework, () he?

- ① hasn't ② is ③ was ④ had

問題2 次の問題K～Qについて、日本語文の意味になるように、（ ）に入れるのに最も適当なものを、①～④のうちから1つ選べ。

K 面接の間とても緊張した。

I was very () during an interview.

- ① nervous ② fortunate ③ feeling ④ good

L 自転車で高校に通っていた。

I () to ride a bicycle to the high school.

- ① got ② liked ③ used ④ was

M あなたの考えには大賛成だ。

I couldn't agree () with your idea.

- ① all ② like ③ so ④ more

N 20年ぶりに育った町を訪問した。

I visited the city for the () time in 20 years where I grew up.

- ① first ② much ③ many ④ all

O ビルの入口で友人を待つために立ち止まった。

I stopped () a friend at the entrance to the building.

- ① waiting ② to wait ③ with ④ into

P 彼はいつもやりたいことをやる。

He always does () he wants.

- ① it ② what ③ the ④ and

Q 今日の午後なら手が空いている。

I am () this afternoon.

- ① happy ② available ③ busy ④ for

問題3 次の会話（R～T）を読んで、問いに答えよ。

R

A : What time is it?

B : It's noon.

A : Really?

B : Yes. Why?

A : Our bus is at 12:10.

B : So?

A : We won't make it.

下線部を日本語で記せ。

S

A : Hello. Akira? Hi, its Hanako.

B : Hey, Hanako. What's ()?

A : I need your help with yesterday's homework.

B : Actually, I'm free this afternoon.

() に入る適語を①～④のうちから 1 つ選べ。

① so ② that ③ she ④ up

T

A : I'm having a party on Sunday. Can you come?

B : Yes, I'd love to.

A : Great! I will give you directions.

B : Thank you. It's very kind of you.

Bさんの今の状況を①～④のうちから 1 つ選べ。

- ① パーティの場所が分からない
- ② パーティがいつかわからない
- ③ パーティの時間は都合が悪い
- ④ パーティに遅れて参加する

問題4 次の文章を読み、以下の設問（U～Y）に答えよ。

Female COVID-19 patients make up a slim majority in the latest sixth wave of novel coronavirus infections, a switch from the male-led trends of the previous surges in cases. Experts cited the country's social structure that has put more women on the front lines in areas susceptible to cluster infections, such as nursing homes and schools. During the sixth wave that began in January, females accounted for 50.05 percent of the 5.12 million infections reported nationwide until April. The share of female patients was 46.8 percent during the third wave from November 2020 to February 2021, 45.8 percent during the fourth wave from March to June 2021, and 44.5 percent during the fifth wave from July to September 2021. The health ministry began publishing data on COVID-19 cases by sex in winter 2020. Kaori Muto, a professor of medical sociology at the University of Tokyo who is also a member of an expert panel advising the government on the novel coronavirus, said (1) women now face a higher health risk in the pandemic because of the traditional roles they play. "A division of roles based on gender that is entrenched in Japanese society could be a big factor behind the rise in cases of female patients," she said. The number of senior citizens and children infected with the virus has surged in the sixth wave. A study by Hitoshi Oshitani, professor of virology at Tohoku University, found that elderly care facilities accounted for 27 percent of all sites with cluster infections between January and April, followed by schools at 24 percent, and nursery schools at 22 percent. Eighty percent of workers in the care industry for seniors are women, according to the Care Work Foundation, an organization advocating improved working conditions for caregivers. Data by the welfare ministry and education ministry showed that women represent more than 90 percent of staff at preschools. Nearly 100 workers and residents at an elderly care facility in the Tokyo metropolitan area were infected during a cluster infection in the sixth wave. "We could not contain the spread of the coronavirus because our job entails close physical contact with care recipients," said a worker at the facility. "We put our arms around them and help them up as well as take their temperatures." Most of those who tested positive in the cluster infection were women, reflecting the fact that women represented 60 percent of care providers and 80 percent of residents at the facility. During the sixth wave, health authorities instructed most COVID-19 patients with no or mild symptoms to recuperate at home. Some of them ended up passing the virus to people at their homes. A survey in March by Emiko Ochiai, a professor of family sociology at Kyoto University, found that women accounted for 70 percent of those looking after patients recuperating at home. The survey also showed that about 30 percent of the female home-care providers caught the virus while looking after an infected relative. A health ministry study on sources of infections as of April 1 found that 50.2 percent of female patients contracted the virus at home, compared with 42.3 percent of men. "An increase in the number of patients staying at home likely raises the infection risks for women, considering their traditional role," Ochiai said. Muto of the University of Tokyo called for anti-COVID-19 measures to ease the burden on women, such as urging men to play a more active role in housekeeping and child rearing.

【出典】

The Asahi shimbun Asia & Japan Watch, May 30, 2022

承諾番号23-1159 朝日新聞社に無断で転載することを禁じる

<https://www.asahi.com/ajw/articles/14633317>

【語注】

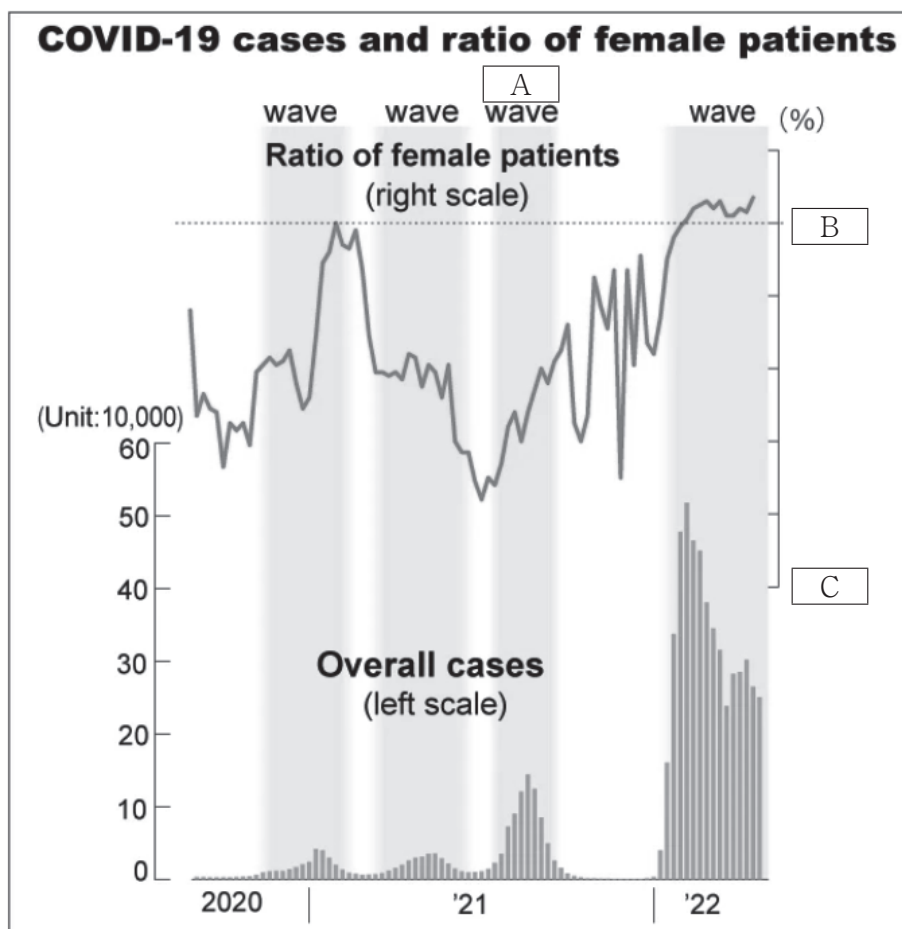
susceptible : 感染しやすい、敏感な

entrenched : 揺るぎないものとなっている

entails : 強いる

recuperate : 回復する

burden : 負担



U グラフ中の **A** に入る最も適切なものを、①～④のうちから1つ選べ。

- ① 3rd ② 4th ③ 5th ④ 6th

V グラフ中の **B** に入る最も適切なものを、①～④のうちから1つ選べ。

- ① 40 ② 50 ③ 60 ④ 70

W グラフ中の **C** に入る最も適切なものを、①～④のうちから1つ選べ。

- ① 20 ② 30 ③ 40 ④ 50

X 下線部(1)を日本語で記せ。

Y 将来の新型コロナ感染者の男女比について、あなたの考える予想をその理由も交えて、日本語80字程度で記せ。

国語試験問題

次の文章は、書籍『ヒトはなぜことばを使えるか 脳と心のふしぎ』の第一章「ことばとはなんだろう」から一部を抜粋したものである。この文章を読み、設問に答えなさい。

(A)

音韻形^(注1)は聴覚・運動系を土台に形成されるが、意味されるもの＝心理表象はもっと広く、すべての感覚系を動員して形成される。また、音韻のように、必ずしも運動系を必須のメンバーとするわけでもない。したがって、本来的に意味は輪郭のはっきりしない、あいまいな構造を持っている。名前が与えられることで、意味に輪郭が与えられることになる。

たとえば、「犬」の意味を例にとってみよう。犬の意味など、輪郭がはっきりしているではないか、と思われるかもしれないが、どっこいそんなことはない。犬の種類は多様で、子牛ぐらい大きいものから、モルモットほど小さいものまである。顔のかたちも、からだのかたちも千差万別である、鳴き声だってさまざまである。触った感触もさまざまである。(1)、いずれも四本足で、ヒトと共同生活をし、かたちにある共通のパターンが認められる。そのような⁽¹⁾共通の特徴が抜き出されて、ある心理表象が生成する。

だから、表象自体はあいまいである。決して具体的なかたち（一匹の犬の視覚表象のような）をとるわけではない。このあいまいな表象に対して、イヌという音韻形が与えられる。

犬はモノだが、モノの性質になると、意味の構造のあいまいさはさらにはっきりする。

たとえば、「アマイ」を考えてみよう。「なめるとなんとなく快が与えられるもの、疲れたときに食べると元気が出るもの、それもお菓子を食するとき、⁽ⁱⁱ⁾サトウをなめるとき、などに共通して感じるもの、鼻から入ってくるものではないもの、耳から入ってくるものでもないもの、目から入るものでもないもの、手で⁽ⁱ⁾触れるものでもないもの」というのが意味だが、ことばにするとこんなに長々しくなるところからみても、モヤモヤした心理表象の複合であることがわかる。「アマイ」という音韻形が、この漠然とした表象にあるはっきりした輪郭を与えてくれるのである。

⁽ⁱⁱ⁾「色」も輪郭がはっきりしない。

数ある色相のどれを青と言ひ、どれを⁽ⁱⁱ⁾藍と呼ぶか。どれを赤と呼び、どれをオレンジと呼ぶか。色相は連続して変化するから、その色合いの変化が細くなればなるほど、どこを境界に一つのかたまり（つまり一つの意味）とみなすのかは簡単ではない。文化により、個人により用いる色の名前数はかなり違っているし、ある特定の移行色をどう呼ぶかも、個人によって結構違う。名前がその輪郭の明示に役割を果たすのである。日本人は山の色をアオ、空の色もアオと呼んできた。日本人のアオは意味が広いのである。交通信号のミドリもアオである。

空間関係の意味もあいまいである。

身体には常に二つの側が認められる。ある特定の手がついている側と、その反対側の手がついている側である。これら二つの側は、どんな対象についても存在する空間特性であって、しかも人と向き合うと、その相手から見て同じ側が反対側になってしまうように、自分の視点でしか表現できない方向である。この「側の特定性」は空間関係の意味の一つである。しかし、このままでは整理がつかない。この相対的な関係にミギ／ヒダリという名前を与えることで、

意味にかたちが与えられる。

ウエ／シタも同じである。すべてのモノの空間構造には上下の関係が認められるが、これは相対的な関係であり、絶対的なものではない。なにかを基準にしたとき、はじめてその基準よりウエ、その基準よりシタ、という関係が出現する。ウエは、それよりウエにあるものから見れば、たちまちシタという意味になり、シタはそれよりシタのものとの関係から見れば、たちまちウエになる。そのような動的な相対関係が、この場合の意味なのである。この垂直性の二者の関係を表わす意味は、ウエ／シタという名前を得ることによって、はじめてかたちが与えられる。

当然ながら、抽象的な意味はさらにあいまいである。

たとえば、AとBが喧嘩をして常にAが勝つ。

あるいは、常にAがBより重い石を持ち上げる。

さらに、AとBがボールの投げ合いをして、常にAがBより遠くへ投げる。

この二人がくらべている共通の性質に対して、チカラという名前が与えられる。Aの方がチカラが強く、Bの方がチカラが弱い。この性質は実際は目に見えない。手にとることもできない。したがって境界もはっきりしない。しかし、われわれは、この輪郭のはっきりしないものをも心理的に表象しうるのである。

「(B)」は心のモヤモヤに輪郭を与える

このように、イヌのような比較的具体的な表象から、チカラのような抽象的な表象まで、あるいはアマイというような特定の感覚表象から、ウエ／シタというような ^(Ⅲ) 空間関係の表象 まで、われわれはさまざまな表象を育てている。目前に存在する具体的事物の表象そのものでなく、その具体的事物をそのメンバーとする一群の事物に共通する表象、それらにまつわるさまざまな記憶に共通する表象などである。これらの表象に名前が与えられ、名前を聞いてこれらの表象が喚起されるとき、われわれは「分かった」と思うのである。つまり、意味とは、名前（広くは言語の音韻形式一般）によって呼び出される表象である。

こうした表象を生成する働きを、とりあえず「意味システム」と呼んでおこう。

意味システムのもっとも単純な形式は、ある特定の感覚様式に成立した知覚像と別の感覚様式に成立した知覚像が統合され、それぞれの感覚を超越した心理表象（様式横断性表象）が作り上げられることである。イヌの鳴き声（聴覚像）とイヌの形態（視覚像）とイヌの感触（触覚像）が統合され、一つの心理表象「犬」を生成する。ある刺激が入ると、この表象が引き出され、照合される。これがその対象を「理解する」ということである。刺激は視覚だけかもしれないし、聴覚だけかもしれない。しかし、その限定した知覚が犬の表象（意味）と照合されると、その刺激が犬であることが理解される。

しかし、意味は常に様式横断性の情報統合に際して出現するものとは限らない。

一つの感覚様式内だけで、^(Ⅳ) 抽出される意味もある。

色は視覚だけに限局した意味概念である。この場合はりんごの赤、椿の赤、夕焼けの赤、というように違う対象が有する共通の性質として、アカという属性が抽出される。あるいは、桃の花のピンクから、^(Ⅴ) 彼岸花の赤まで、さまざまなニュアンスに共通する一つの属性として、アカという概念が抽出され、表象として蓄えられる。

概念に名前が与えられ、輪郭がはっきりすると、その名前を土台に別の概念も鮮明になる。ウエという概念がウエという名前によって明示されることで、シタという概念が定義できる。ミギという単語がヒダリという意味を明示する。ことばがことばを生む。意味が意味を生むのである。このように名前は、われわれの心にモヤモヤと浮遊している心理表象（意味）にくっきりとした輪郭を与える働きを持つ。名前はあくまで聴覚の形式であり、それ自体に意味はない。意味は記憶と多様式感覚入力の相互作用の中で、感覚を超えた表象として成立する。名前とその意味は強く結びつけられて、単語という一つの心理構造を作り上げる。

しかし、意味は単語の (3) ドクセン 物ではない。単語では表わせない意味もいっぱいある。センテンスが表現するのは、まさにそのような意味である。センテンスは単語に縛りつけられた、ある程度固定した意味ではとうてい表わせない、もっと動きのある、豊かな意味を表現する。新しい意味を生成する働きは、思考と呼ばれる。

センテンスの意味

人間の心理は複雑で、単語があれば心の動きがすっかり表わせるかということ、もちろんそんな馬鹿なことはない。単語だけでは言い表わせない心の動きがいくらかでも存在する。そんな場合、どうするだろうか。

センテンスを使うことになる。

本章のはじめで述べた「エンピツヲカシテクレ」に戻って考えてみよう。エンピツは単語である。ヲもカシテもクレも単語である。ただカシテはエンピツとは単語の性質が違う。カスという動作を表わす単語（文法上では動詞）が、テという次に続ける単語（助詞）につながったためにカシテと変化している。クレはクレルという「自分のために他人がその動作をし、それによって (18) オンケイ・利益を受ける」（『広辞苑』第四版）ことを表わす動詞の、依頼（命令）を表現した形式である。

ここで、話し手の心にエンピツ・カス・クレルという単語が浮かんだとしても、ただ連結しただけではセンテンスにはならない。「エンピツ・カス・クレル」と (19) ラレツ してみても、日本語のセンテンスではない。意味も通じない。ここはどうしても「エンピツヲカシテクレ」でなければならない。もし、もう少し荒っぽく言ってよければ「エンピツヲカセ」となる。カセはカスを命令のかたちにした変化形である。この場合も、「エンピツヲカス」ではこの状況では意味が通じない。センテンスになっていない。「エンピツヲカセ」でなければならない。

このように、センテンスは単語の連結によって作り出される。それもただ連結されるのではない。社会の約束にしたがって、つまり (20) その言語の話されている社会の約束にしたがって連結される。この約束は、統辞規則あるいは文法と呼ばれている。

センテンスは単一事象を超えた、複雑な意味の伝達を可能にする。「エンピツヲカシテクレ」だと、状況によっては「エンピツ」だけでも意味は通じるが、そのときは、手を出すとか、書く身振りをするとか、なんらかの補助的な情報を付け足さないと意味は通じない。「エンピツ」に「カス」という相手から自分へモノを移動させる意味を表わす単語と、移動させるものはエンピツだという目的を明示する単語「ヲ」（助詞）と、その移動があればありがたい、という依頼の気持ちを表わす単語「クレル」が約束通りに、あるいは文法通りに連結されてはじめて、聞き手に話し手の考えていることと同質のイメージが喚起されることになる。話し手と

聞き手が単語のつなげ方についてある約束事を成立させているからこそ、同じイメージが両者に喚起されるのである。

文法は特別な生物的能力か

単語を連結するとき、この約束事にしがわないと、つまりいわゆる「_(v) 文法」がないと、意味は伝わらない。この事実を重視して、文法こそが言語の本質であり、しかもそれは人類に特有で、ヒトの脳にもともと内在している（つまり遺伝する）能力である、という考え方がある。文法能力（語を文法に即して連結し、表現する能力。あるいは文法に即して連結された語群を理解する能力）はわれわれが生まれた後に発達するのではなく、もともと存在しており、その能力が成長につれて _(ホ) 顕在化する、と考えるのである。もともと存在しているものだから、当然この文法能力は、人類共通の法則に従うことになる。

ヒトの認知能力の中で、文法だけに特殊な地位を与えるこの考え方は、生成文法論と呼ばれ、かなりの人に信奉されている。

しかし、この考え方には素直には受け入れられないところがある。

実際に話されている言語のかたちは、民族によって大きく異なっていて、とても共通しているとは思えない。起源を同じにする言語は別だが、起源が違う言語のあいだに遺伝で規定できるほどの共通性があるとは、とても考えられないのである。たとえばの話だが、脳に普遍的な文法構造が内在しているのなら、少し勉強すれば日本人も英米人なみにどんどん英語がしゃべれてもよいはずだが、なかなかそうはいかない。普遍的な能力を所有しているのなら、日本語の文法があやつれるわけだから、その文法原理を英語のしゃべりに応用できてよさそうなものではないか。

筆者は _(ホ) リンショウ家だから、観察に主眼を置く立場である。この立場からものをみてきた経験からいうと、行動として表面に現れる違いは、その行動表現に責任を持つ脳内構造の違いを反映していると思われる。そう思って言語をみると、ある種の言語間の違いはそう簡単に無視できるものではない。

まず、いままで述べてきたように、ことばの基本である単音の区別は、言語によってさまざまに違う。l と r を区別する言語もあれば区別しない言語もある。d と z を区別する言語もあればしない言語もある。基本音が少ない言語もあれば、多い言語もある。恣意的なのである。

要素的概念に音韻ラベル（名前）を貼りつけるやり方（単語の生成のされ方）も、文化によってまったく違う。木の葉の概念にハという音韻形を貼りつけるところ（日本語）もあれば、leaf という名を貼りつけるところ（英語）もある。前者は木のイメージにキという音韻形を与え、後者は tree という音韻形を与える。前者のように自分を表現するのにワタシ、ワタクシ、ワテ、ワイ、ウチ、オレ、テマエ、ボク、ヤツガレ、セッシャ、ジブンと多くの単語を用いる国もあれば、後者のようにすべて I にまかせるあっさりした国もある。文化によって、これもまったく恣意的なのである。

センテンス表現だけは例外かということ、そんなことはない。やはり恣意的である。

「エンピツ・ヲ・カシ・テ・クレ」を英語で言えば、“Will you lend me a pencil?” ということになるのだろう。全然違いかたちである。単語概念は共通すると仮定しても、英語の順序通りに日本語で並べると、「クレル・オマエ・カス・ワタシ・ヒトツ・エンピツ」となって、単

語の数も並べ方も全然違う。

日本語では「鉛筆」が先に来て、その後に「貸す」が来ている。英語は「貸す」が先に来て、その後に「鉛筆」が来る。(2)日本語では「貸す」には「て」がくっついて「貸して」と変化しているが、英語ではそんなつなぎの単語は見当たらない。「貸す」のままである。そのかわり日本語ではただのエンピツだったものが、英語ではエンピツの前に数を示す単語（冠詞）が一つくっついている。日本語では「貸してくれ」とつながっている意味が、英語ではwillとlendに分かれ、しかもカシテクレの順序はクレル、カスと逆転している。言語文化によって、単語の並べ方も動詞の変化のさせ方も恣意的なのである。

（注1）名前：意味するもの

〔出典：山鳥重『ヒトはなぜことばを使えるか 脳と心のふしぎ』講談社現代新書（1998）〕

問題1 下線部 (い) (ろ) (は) (に) (ほ) を漢字に直しなさい。

問題2 下線部 (イ) (ロ) (ハ) (ニ) (ホ) の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問題3 (1) (2) に入る、適切な語を下から選びなさい。ただし、それぞれ異なる語が入るものとする。

つまり また したがって しかし たとえば

問題4 下線部 (I) 「共通の特徴が抜き出されて、ある心理表象が生成する」働きについて、「犬」を例にどのように説明されているかを、「犬」あるいは「イヌ」の少なくとも一方と、本文中の言葉を用いて40字程度（句読点や括弧等の符号も数字に数える）で書きなさい。

問題5 下線部 (II) 「「色」も輪郭がはっきりしない。」とあるが、「色」は何に限局した意味概念であると述べてられているか、本文中から漢字2字で抜き出しなさい。

問題6 下線部 (III) 「空間関係の表象」として、本文ではウエ／シタ、ミギ／ヒダリが挙げられている。これらとは異なる相対的な空間関係の表象の名前を、これらと同様な表記方法でカタカナと「／」で書きなさい。

問題7 下線部 (IV) 「その言語の話されている社会の約束にしたがって連結」し、新しい意味を生成する働きは何と呼ばれているか、本文中から漢字2字で抜き出しなさい。

問題8 見出し部分の (A) (B) に入る最も適切な語を下から選びなさい。

抽象的な表象 相対的な関係 意味システム
横断性の情報統合 単語の意味 センテンス

問題9 下線部 (V) 「文法」は特別な生物的能力であるかについて、著者はどのように考えているかをその理由と合わせて90字以内（句読点や括弧等の符号も数字に数える）で本文中の言葉を用いて書きなさい。

問題10 著者の考えとして合っているものを、次の1～5のうちから全て選びなさい。

- 1 名前はあくまで聴覚の形式であり、それ自体に意味はない。
- 2 表象自体は具体的である。
- 3 文法はヒトの脳にもともと内在している。
- 4 意味とは、名前によって呼び出される表象である。
- 5 本来的に意味はあいまいな構造を持っている。